①

創作童話

『木の精キロリのひみつのいのり』

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
address：〒174-0063　東京都板橋区前野町４－８－６
tel & fax：03-3960-6052　　e-mail：info@npo-soe.jp

この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

②

キロリは　イチョウの　木の精です。
キロリは　自分の木が　自慢です。
だって、　この木は　どんな木よりも
古くから　この地球（ほし）にあったから。
ずーっと、　ずーっと　大昔、
まだ恐竜が　住んでいた頃から、
この木は　ここにありました。
葉っぱの　二つに割れたような筋は、
大むかしの木にしかありません。

キロリは　オジィから　イチョウの木の
秘密の祈りを　聞きました。
その祈りは　一度しか使えない
秘密の祈りです。

さて、キロリには、困ったことがあります。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

③

それは、　カラスの　カースケと
ヒヨドリの　フースケが　自分の木の上で
ケンカをしていることのです。

（カースケ）「カーカー！　お前たちは
頭を　ボサボサにしていて　だらしない！
しかも食いしん坊ときた！　こんなヒヨドリに、
この立派な木は　渡さないぞ！　カー！！」
（フースケ）「ギーギー！　カースケ達は
いつも　大勢で鳴きわめいて、
うるさいんだ！　そんな行儀の悪い
カラスに　この木を渡すものか！　ギ―！」

この二匹の　終わらないケンカを
キロリは　イチョウのうろの中から
聞いていました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

④

すると、向こうから、
小さな　人間の男の子が　来るのが見えました。

「キロリー、遊ぼう！」
と　男の子は言いました。

（キロリ）「モックンだ！」

モックンは、キロリをみることができる、
ただ一人の人間です。
他の人間には　キロリは見えません。
キロリは急いで、木から下りて、
モックンの頭に　飛び乗りました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑤

モックンと　キロリが　ブランコをこぎ、
空まで届くよう　頑張っていると、
目の前の　イチョウの木から
何かが　落ちてきました。
（キロリ）「なんだ、なんだ？」
（モックン）「行ってみよう！」

キロリと　モックンが　行ってみると、
つんとすました　ツグミの　グっちゃんと、
オレンジ足の　ムクドリの　マー坊が
駆け寄ってきました。
落ちてきたのは、
ヒヨドリの　フースケでは　ありませんか。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑥

（モックン）「大丈夫？　ケガしなかった？」
キロリも、　モックンも　グっちゃんも
マー坊も　フースケを　覗き込みました。
（フースケ）「痛い、痛い！　カースケが
悪いんだ！　乱暴者は　どこかへ　行け！」
フースケは　イチョウの木に　とまる
カースケに　向けて、　苦しそうに　言いました。
（カースケ）「ボサボサフースケ！
お前の負けだ！　お前のように
何の木の実でも　食べてしまう
食いしん坊に、　このイチョウの木は
やらない！　この木は　俺たちの木だ！！」

そう言って、　カースケや　カラスたちは
イチョウの　木の周りを　勝ち誇ったように
飛び始めました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑦

フースケは　動くことが　できません。

キロリと　モックンは、

ハンカチを　傷口にあててあげました。

グっちゃんと　マー坊は　せっせと

水を口に含んで　フースケに　届けました。

みんなの手当てのおかげで、

フースケは　元気になってきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑧

イチョウの　木の周りは　たくさんの
カラスで　いっぱいです。
おまけに、　たくさんのカラスが
ガーガーと　鳴くので、　とてもうるさいです。

キロリは、
「もう少し　静かにならないかなあ。」
と　ため息を　つきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

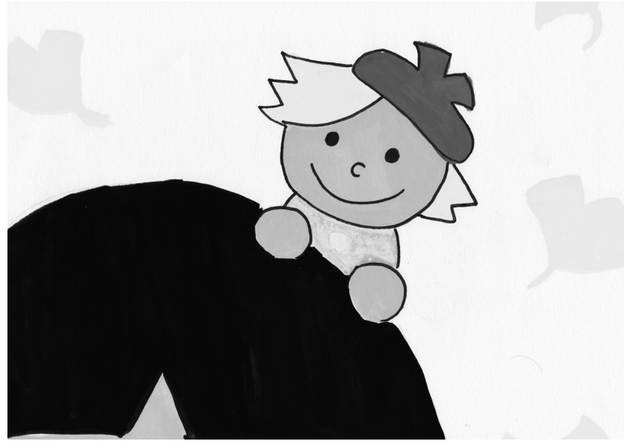
⑨

時は経ち、　秋になりました。
イチョウの木は、　何百・何千という　実をつけ、
地面に　落としました。
すると、　カースケ達カラスは、　そばにより、
食べようとしました。
しかし、
（カースケ）「なんだ、　このにおい！
こんなくさいもの、　食べられるか！！」
そう言って、　カースケ達は　街の方へ
飛んで行ってしまいました。

そこに　フースケ達が　やってきて、
イチョウの実を　つついて　食べたり
落としたりしています。
木の周りは　イチョウの実で　いっぱいです。

モックンと　その友だちが　イチョウの実を
拾いにやってきました。
中の実が　おいしいことを　知っているからです。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。



⑩

キロリは　みんなが　イチョウの実を
取りに来てくれるのが　とても嬉しくて、
自慢でした。

「お家に帰って　ママに　焼いてもらうよ。」
モックンは言いました。

イチョウの実のおかげで、　カースケ達は
来なくなり、　ヒヨドリの　フースケ達の
家になりました。
キロリは　これで少し静かになったかなと、
ホッとしました。

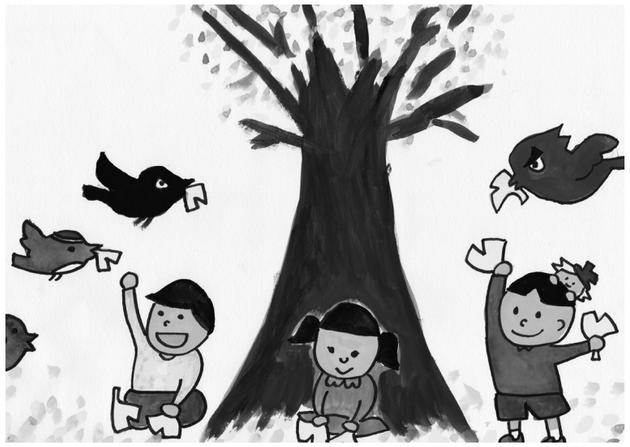
特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑪

秋も深まった頃、　毎日雨が降り続きました。
キロリは　イチョウの木が　どんどん年を
とって、　弱っていくのが　心配でした。
うろの中に座って、　雨の強い音を
聞いていると、　誰かが呼んでいる声がします。

（モックン）「キロリー、元気？
雨で遊べなくて　つまらないねー」
モックンでした。
（キロリ）「元気だよ。　でも　イチョウの
木の　元気がないんだ。」
（モックン）「そうなの！？　どうしたら、
元気になるのかなあ。」
（キロリ）「昔、　オジイが　言っていたんだけど、
落ちたイチョウの葉を　たくさん集めて、
生き物の形にすると、　地面から　命の力が
湧いてくるんだって。　その力で、
イチョウを　元気に出来るかもしれない！」

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。



⑫

次の日、雨が上がると、モックンは
友達を連れて、イチョウの木の下に
やってきました。
（モックン）「皆で、イチョウの葉で
生き物をつくろう！」

皆は せっせと 黄色いイチョウの葉を
拾っていると、ガヤガヤ 空から降りてきた
者がいます。カースケ達でした。
口に イチョウの葉を くわえては、
子ども達の所に 葉を運んでいきます。
すると、ヒヨドリの フースケ達も 真似をして、
葉を運んでいきます。
ツグミの グっちゃんや ムクドリの マー坊も
やってきて、葉を運んできます。

【作業の指導へ】※下記参照

〔指導者用の言葉の例〕
イチョウの木を元気にするために、みなさんもイチョウの葉で、いろいろないきものを作ってみませんか。
（子ども：はーい）
では、イチョウの葉で画用紙に好きな生き物を考えて貼ってみましょう。

【創作活動（20分程）】
では、みなさんのつくった生き物をイチョウの木に向かってみせてください。
そして何の生き物か教えてあげてください。

【発表活動】
（あっという間に、たくさんのイチョウの葉が集まり、次々に地面に生き物たちが出来上がっていきます。）

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑬

「ちょうちょ、　花、　トンボ、　クワガタ、
ライオン〔実際に作ったものにあわせて〕、
など、　すごいな　こんなにたくさん！！」
キロリは喜びました。
みんなのおかげで、　イチョウの　木が
みるみる　元気になっていきます。
その様子をみて、　キロリが　叫びました。

（キロリ）「木のいのち、　木のいのち、
おおきくなあれ！！　ドドンガードーン」

キロリは　オジィから聞いていた、
一度しか使えない　秘密の祈りを使いました。
すると、　年おいたイチョウの木が、
ブルルーン、ブルルーン、ブルルーン！！！
と体中をふるわせ、　背伸びをしたかと
思うと、　全身で　体を広げて　みるみる
立派な　イチョウの木になりました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。

⑭

（モックン）「わー！！　世界一立派な
イチョウの木だー！！」
みんなは大喜びです。
カースケも　フースケも、グっちゃんも
マー坊も、モックンも　キロリも
みんなが　大きな拍手をしました。

さて、　世界一大きな　イチョウの木は
一体　誰のすみかになったのでしょう。
あまりに大きな木なので、　カースケ、
フースケ、グっちゃん、マー坊、
みんなで住んでも　まだまだ大丈夫！
キロリは　仲良くなった　鳥たちを見て
モックンと　微笑みました。

イチョウは　みんなが作った生き物と、
秘密の祈りのおかげで、　今までで
長く生きてきたのかもしれませんね。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。